

## 2021年度 プロジェクト研究所業績報告書（中間報告）

プロジェクト名	国際教育ボランティアにおける「深い学び」を促進する教育モデルの開発
研 究 所 名	実践女子大学国際教育研究所
設 置 開 始	2018. 4. 1
設 置 終 了	2023. 3. 31

### ■研究の進捗状況（研究員の活動実績含む）

本年度については、本研究の第3の目標である3. 事前研修プログラムの開発〈汎用性の検討〉を中心に取り組む予定であった。具体的には、9月に、一昨年度から実施を見送っている教材作成協力者の現地派遣を行い、教材の活用方法について検討し、さらにその結果を踏まえて、2月に実際アカデミックボランティアに参加する学生に、現場で教材を使った教室内活動を行ってもらった。その後、読み聞かせ教材を使った教授活動が、どの程度有効であったか、新たな発見があったか、さらに今後どのように役立てたいかについて面談調査を行い、事前研修プログラム開発に必要なデータを収集する予定であった。しかしながら、コロナ禍の影響により、今年度も9月の現地派遣が実施できなかったこと、さらに3月に予定していた学生派遣も中止となったため、今年度は昨年度同様実質足踏み状態となってしまった。

### ■現在までの達成度

3つの研究目標のうち、2. 漢字学習を目的とした読み物の開発まで達成している。

#### 2. 漢字学習を目的とした読み物の開発

具体的には、協力者2名（以下教材作成協力者）に協力を依頼し、2019年9月までに40教材、2020年3月には、さらに122教材を完成し、小学校1年生から中学校2年生を対象とする読み物教材をほぼ完成した。同月には、同2名の協力者をワデル・ランゲージ・アカデミーに派遣し、現地研究員と共に、作成した教材の活用方法について検討する予定であったが、コロナウイルス感染による社会情勢危機により、昨年度同様派遣を来年度に先送りすることにした。

### ■次年度以降の研究（見込み）

来年度については、2年間実施を見送った、本研究の第3の目標である3. 事前研修プログラムの開発〈汎用性の検討〉を中心に取り組む。具体的には、9月に、本年度実施を見送った教材作成協力者と研究員の現地派遣を行い、教材の活用方法について検討を行う。さらにその結果を踏まえて、2月に実際アカデミックボランティアに参加する学生に、現場で教材を使った教室内活動を行ってもらった。その後、読み聞かせ教材を使った教授活動が、どの程度有効であったか、新たな発見があったか、さらに今後どのように役立てたいかについて面談調査を行い、事前研修プログラム開発に必要なデータを収集する。

### ■研究活動における成果

(1) 研究成果（雑誌、学会発表、図書等）

(2) 学生・生徒の教育及び支援に関する還元

2021年11月本学常磐祭にて経過報告を行った。